

製薬企業も医療SNSの輪に 地域包括ケア参入支援へ協業



製薬企業がソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)を活用した患者中心の医療とつながる。医療介護ソーシャルプラットフォーム事業を展開するエンブレースと製薬企業向けに営業・マーケティング支援を行うビーアイメディカルは、製薬業界の地域包括ケア参入支援に向け、協業を始めた。エンブレースが開発した医療・介護専用のSNSを活用し、重症化が懸念される患者を医療・介護の多職種が見守り、医薬品の飲み忘れや副作用の徴候を見逃さない仕組みだ。さらに、SNS上に医薬品の飲み忘れや副作用の兆候を知らせる仕組みを実装することができ、安全に医薬品を飲み続けることや副作用管理を支援することが可能となる。

エンブレース・ビーアイメディカル

エンブレースが開発した完全非公開型医療介護専用SNS「メディカルケアステーション」(MCS)は、2013年8月からサービスを開始した。病院やクリニック、薬局、介護施設などで働く医療・介護者の多職種連携や患者・家族とのコミュニケーションツールとして、全国の医療介護現場で利用されている。MCSは、2013年8月からサービスを開始した。病院やクリニック、薬局、介護施設などで働く医療・介護者の多職種連携や患者・家族とのコミュニケーションツールとして、全国の医療介護現場で利用されている。

「患者タイムライン」と呼ばれる機能。患者名のスレッドを立て、医療者と介護者が情報交換を行う。1人の患者に対して施設を超えて多職種が参加し、今後の治療方針や治療後のリハビリ計画などについてのやり取りを行う。

「患者タイムライン」の管理者の判断で患者やその家族を招待することでもできる。患者はオンライン上で、服薬などを含む治療やケアの相談を、医療・介護者より取り出すことができる。ちなみに、医療・介護者のみ参加するスレッド(医療・介護側)と患者が参加するスレッド(患者側)に分かれているので、そ

れぞれの目的に応じた活用が可能となっている。もう一つのサービス機能が医療・介護者が特定の地域や疾患を対象に意見交換を行える「コミュニティ」機能だ。例えば、「栃木県・骨粗鬆症」のコミュニティでは、整形外科の専門医とそこで知識を得たいと考える看護師や薬剤師、理学療法士、ケアマネジャーなどが

集まり、情報を共有する。利用者数は昨年末に約8万人だったのが、現在は約9万人、今年末には約10万人を見込んでおり、拡大基調にある。コミュニティ数は約2万6000件に達し、多くの医療・介護従事者をつなげるプラットフォームとして、各地域で多職種連携による成功事例が生まれている。

ラインの施行を受け、コンプライアンスに対応した体制が厳格化されたことで製薬各社も苦悩している。両社は、コンプライアンスに関連したガイドラインの遵守や要配慮医療情報の取り扱いなどのセキュリティを重要視し、安心して利用できる体制を敷く。協業開始から数カ月しか経過していないが、専門医の数が限られる希少疾患や副作用管理が必須となる癌領域では有効である感触は得られたという。

あらゆる医療・介護従事者にMCSを使ってもいい、製薬企業もチーム医療の一員として地域医療に関与できるようにし、わずかなコストで患者のベネフィットを最大化するのが目標だ。多くの医療・介護従事者が集い、患者データも蓄積されたMCSのプラットフォームは、医薬品卸との協業や治験の調整、ウェアラブル機器から収集したデータ活用などあらゆる場面で使える可能性がある。患者が治療方法を自己決定する患者参画の時代にも、対応できるようにしていきたいと考えた。

服薬管理や情報提供に活用

地域包括ケア対応を強化する製薬企業もMCSの輪に組み入れる。エンブレースは昨年12月、製薬業界向けのコンタクトセンターで実績のあるビーアイメディカルと業務提携契約を交わした。5月から製薬企業向けアプリケーション製品群について、ビーアイメディカルが販売代理店として独占的販売を行っている。

地域包括ケアにおいて、重症化が懸念される患者に対し、多職種によるチーム医療で見守る体制づくりが鍵になる。製薬企業も医薬品を供給するだけではなく、患者のアウトカムを重視したアプローチが求められる。

ケイションとして、新たに製薬企業向けコミュニティを構築しているが、その介入方法に限界があった。そこでMCSの患者タイムライン上で、服薬アドヒアランスや副作用の管理を支援するアプリケーション機能を追加した。患者が服薬記録やその日の体調、気になる症状などを入力すると、主治医や薬剤師、看護師が患者の状況を確認できるようにし、多職種間、患者・医療従事者間での密なコミュニケーションによって、重症化を防ぐ仕組みだ。実際、抗がん剤治療を行う患者の服薬管理・副作用マネジメントに活用された事例も生まれている。この取り組みにより製薬企業は患者タイムラインに立ち入れないが、薬剤投与後のリスクを最小化することが可能となる。

また、製薬企業と医療・介護者のコミュニケーションを重視したアプローチが求められる。

また、製薬企業と医療・介護者のコミュニケーションを重視したアプローチが求められる。

また、製薬企業と医療・介護者のコミュニケーションを重視したアプローチが求められる。

MCSの概念図

地域包括ケアにおいて、重症化が懸念される患者に対し、多職種によるチーム医療で見守る体制づくりが鍵になる。製薬企業も医薬品を供給するだけではなく、患者のアウトカムを重視したアプローチが求められる。

また、製薬企業と医療・介護者のコミュニケーションを重視したアプローチが求められる。

また、製薬企業と医療・介護者のコミュニケーションを重視したアプローチが求められる。

また、製薬企業と医療・介護者のコミュニケーションを重視したアプローチが求められる。

また、製薬企業と医療・介護者のコミュニケーションを重視したアプローチが求められる。